



都内では珍しい『サツマイモの花』が開花！

と き

8月30日(火)撮影

と ころ

土支田3-7-5

30日、関口 守朗(せきぐちもりお:79歳)さんの畑で、サツマイモの花が開花した。開花には、気温や養分、日照時間など、さまざまな条件を満たす必要があるため、熱帯や亜熱帯地域で咲くことはあっても、東京で咲くことは珍しいという。

関口さんの畑で今年開花したのは、安納芋(あんのういも)の花で濃い紫色の花びらが緑の葉の間から顔をのぞかせていた。極めて珍しく、咲いているのは近隣でも関口さんの畑だけという。必ず咲くとは限らないため、開花のたびに近隣住民をはじめ区外からも見物人が訪れる。

サツマイモの花はヒルガオ科に属していて、アサガオに非常によく似た性質を持つ。午前中いっぱいが見ごろだが、天候によっては昼過ぎまで見られる。夕方には散ってしまう。



サツマイモの花



【サツマイモの花が開花した畑について】

約2,700㎡ある大きな畑のうち、約1,000㎡の畑でサツマイモが栽培されており、その中でサツマイモの花が、顔をのぞかせていた。

最初にサツマイモの花を発見したのは平成15年のこと。次に平成20年、21年と続き、23年以降は毎年咲かせている。29日に咲き始めているのを発見したようだ。

関口さんは「今までにない、良い色の花が咲いた。同じサツマイモでも隣の畑では咲いていない。どういった条件で咲くのかはわからないが、かわいい花が咲くのは嬉しいこと。」と微笑みながら、花にカメラを向けていた。

サツマイモの花は、開花のたびに近所でも話題となり、区内の近隣住民をはじめ、埼玉などの近隣の県からも珍しがって人が訪れている。サツマイモの収穫できる10月ごろまで花は見られるが「一番きれいに咲くのは今の時期」とのこと。なお、これらのサツマイモは市場には出荷せず、畑で直接販売するほか、近隣の幼稚園児が10月ごろに収穫する予定。

【サツマイモの花】

サツマイモはヒルガオ科に属し、その花はアサガオの花によく似ており、花びらは白く、中心部分は紫色。また、短日植物であるため、昼間の長さが短くなって11時間以下になると開花する。熱帯や亜熱帯ではよく開花するが、北緯30度以上の地域での開花は非常に珍しいといわれている。

花言葉は、『乙女の純情』。